

発達障害情報・支援センターにおける情報データベースの構築

研究分担者：山脇かおり（国立障害者リハビリテーションセンター）
研究協力者：与那城郁子（国立障害者リハビリテーションセンター）
渡邊 文人（国立障害者リハビリテーションセンター）
吉田 光爾（東洋大学）
本田 秀夫（信州大学）

研究要旨

本研究は、発達障害情報・支援センターが運用する2つのウェブサイト（情報センターホームページおよび「発達障害ナビポータル」）の閲覧状況を把握し、当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて（KOKOMITE）」に掲載する医療機関情報の更新を行うことで、国の情報発信体制の現状と課題を明らかにすることを目的とした。

閲覧状況の分析では、ナビポータルの利用が増加し、当事者・家族向けの実用的な情報や支援者向け研修コンテンツへのアクセスが多いことが示された。一方、情報センターホームページでは閲覧数が減少しており、利用者ニーズがより専門的・実用的な情報へ移行している可能性が示唆された。

また、「ココみて（KOKOMITE）」の医療機関情報の更新では、既存情報の見直しに加え、新たに375か所の医療機関が追加され、掲載内容が大幅に充実した。あわせて外国語対応状況も整理し、利用者の多様化に応じた基礎的な情報整備を進めた。収集した医療機関情報は「地域精神保健医療福祉資源分析データベース（ReMHRAD）」にも掲載し、国レベルでの情報資源の統合を推進した。

A. 研究目的

発達障害情報・支援センター（以下、「情報センター」）で運用している2つのウェブサイト（情報センターのホームページと「発達障害ナビポータル」については、発達障害に特化した国のサイトとして、情報発信の充実が求められている。

1年目は、両サイトの利用状況の集計結果を概観し、今後の情報発信の充実および体制強化に向けた事前検討を行ったところ、情報検索ツールなど、当事者・家族向けに開発したコンテンツの活用度が高いことなどが示された。

2年目は、閲覧状況の経過を確認するとともに、ユーザーの満足度の向上を目的に、当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて（KOKOMITE）」の掲載情報、特に医療機関情報の更新を行い、掲載情報の充実をはかった。

B. 研究方法

1. ウェブサイトの閲覧状況の把握

両サイトの現況を確認して閲覧動向を把握した。

具体的には、令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）の1年間における、各サイトのユーザー数、表示回数、セッション数、及びアクセス数の多いページを、Google Analytics を用いて集計した。

2. 情報検索ツール「ココみて（KOKOMITE）」の医療機関情報の更新

発達障害の診療を行っている医療機関への追加調査を実施した。

【実施期間】

2025年11月1日～2026年3月10日

【実施方法】

下記①および②の医療機関へ調査票を郵送。

医療機関からの回答は、同封のハガキまたはフォームでの回答、いずれか希望の方法で求めた。

①既に「ココみて (KOKOMITE)」に掲載されている医療機関：897 か所

※掲載継続の可否、掲載内容の変更の有無の確認、追加質問項目（外国語対応状況）について回答を求めた。

②都道府県で公開されている医療機関リスト等に掲載されていた機関：3,162 か所

※前回調査で掲載を希望しなかった医療機関を含む。

(倫理面への配慮)

ユーザー属性を省いた情報を抽出・集計しており、個人情報を取り上げるような内容とはなっていない。

C. 結果

1. ウェブサイトの閲覧状況

1-1. 情報センターのホームページについて

- ・ユーザー数：342,716（前年度比：-26.3%）
- ・表示回数：874,964（前年度比：-24.3%）
- ・セッション数：432,531（前年度比：-25.5%）

アクセス数の多かった上位 10 ページ（トップページは除く）は、下記の通りである。カッコ内の数字は、表示回数である。

- ① 発達障害者支援センター一覧 (106,661)
- ② 発達障害とは (62,136)
- ③ 各障害の定義 (28,720)
- ④ 強度行動障害支援者研修資料(23,641)
- ⑤ 障害者総合支援法 (22,723)
- ⑥ 発達障害を理解する(16,885)
- ⑦ 発達障害に気づく(16,879)
- ⑧ 発達障害について書かれた外国語パンフレット(16,415)
- ⑨ 相談窓口(15,400)
- ⑩ みなさんに、わかってほしいこと(15,140)

1-2. 「発達障害ナビポータル」について

- ・ユーザー数：260,910（前年比 +29.3%）
- ・表示回数：810,711（前年比 +9.4%）
- ・セッション数：356,996（前年比 +19.6%）

アクセス数の多かった上位 10 ページ（トップページは除く）は、下記の通りである。カッコ内の数字は、表示回数である。

- ① 発達性協調運動症(84,863)
- ② 当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて (KOKOMITE)」(47,553)
- ③ アセスメントツール (M-CHAT) について (22,620)
- ④ 教育福祉連携のための研修コンテンツ [研修動画] (21,272)
- ⑤ 発達障害児者の支援に関する標準的な研修プログラム [研修動画] (18,629)
- ⑥ 発達障害のある人のつらい感覚の問題とそのセルフケア(16,643)
- ⑦ 令和 7 年度支援者向けセミナー（ペアレント・プログラム）配信ページ(15,957)
- ⑧ 青年期・成人期 (15,797)
- ⑨ 研修コンテンツ集 (13,676)
- ⑩ 学童期・思春期(12,258)

2. 情報検索ツール「ココみて (KOKOMITE)」の医療機関情報の更新

すでに掲載されていた医療機関について、掲載情報の内容更新が完了した。新たに 375 か所の医療機関が追加掲載されることとなり、掲載情報の充実につながった。

・掲載医療機関数：898 か所 (2025.3.31 時点)
→1,273 か所 (2026. 3.14 時点)

情報センターで収集した医療機関情報は、「地域精神保健医療福祉資源分析データベース (ReMHRAD)」にも掲載した。情報の掲載箇所は、R5 年 10 月に公開された「発達障害を支援する社会資源」のタブで、障害福祉資源として、全国の発達障害者支援センター一覧の最新情報もあわせて掲載した。

また、今回の調査で追加質問項目として設けた外国語対応状況についても結果を整理し、「発達障害診療を行っている医療機関（外国語対応可能）」の一覧リストを作成し、発達障害ナビポータル上で公開した。

D. 考察

今回、情報センターが運用する 2 つのウェ

ブサイトの閲覧状況を把握するとともに、当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて (KOKOMITE)」に掲載する医療機関情報の更新を行い、国の情報発信体制の現状と課題を検討した。

まず、閲覧状況の分析から、情報センターのホームページでは前年度比でユーザー数・表示回数・セッション数が減少した一方、「発達障害ナビポータル」ではいずれも増加がみられた。特に、当事者・家族向けの情報検索ツールや、発達性協調運動症など特定テーマに関するページの閲覧が多かったことから、当事者が求める情報の傾向がより専門的・実用的な内容へと移行している可能性が示唆された。また、研修動画や教育・福祉連携に関するコンテンツの閲覧が多いことから、支援者向け情報の需要も引き続き高いことが確認された。

次に、「ココみて (KOKOMITE)」の医療機関情報の更新では、既存の掲載情報の見直しに加え、新たに 375 か所の医療機関が追加され、掲載数が大幅に増加した。これは、発達障害の診療に対応する医療機関の把握が進んだことを示すとともに、当事者・家族が必要な医療情報にアクセスしやすくなるという点で重要な成果である。また、今回新たに収集した外国語対応状況の結果を社会資源リストとして公表したことについては、近年、多言語支援が必要な利用者が増加していることから、有用な情報提供につながる可能性があると考えられる。

さらに、収集した医療機関情報を「地域精神保健医療福祉資源分析データベース

(ReMHRAD)」に掲載したことにより、国レベルでの情報資源の統合につながり、支援機関や自治体が共通の情報を参照できる基盤が整いつつあると考える。

以上の結果から、国の情報発信においては、①当事者・家族が求める、より実用的な情報コンテンツの充実、②医療機関情報の定期的な更新、③多言語対応等、今後求められる社会資源情報の開発、④複数の情報資源の整

備・統合が今後の重要な方向性として示唆された。

E. 結論

本研究では、情報センターが運用する2つのウェブサイトの閲覧状況を把握するとともに、「ココみて (KOKOMITE)」に掲載する医療機関情報の更新を行い、国の情報発信体制の現状と課題を検討した。

閲覧状況の分析から、当事者・家族向けの実用的な情報や、支援者向け研修コンテンツへのアクセスが増加しており、国の情報サイトが多様な利用者にとって重要な情報源として機能していることが確認された。また、医療機関情報の更新により、掲載医療機関数の増加や外国語対応状況の公開など、利用者のニーズに応じた情報の充実に向けて取り組まれた。

今後は、医療機関情報を含む各種情報の定期的な更新体制を整備するとともに、複数の情報資源を統合した情報基盤の強化を進めることで、当事者・家族および支援者が必要な情報によりアクセスしやすい環境を整備していくことが求められる。

F. 健康危険情報

本研究に関する健康危険情報は無い。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

参考文献

- 1) 国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターホームページ
<https://www.rehab.go.jp/ddis/>
- 2) 発達障害ナビポータル
<https://hattatsu.go.jp/>